

球場が「リフレッシュ」

県から市へ 所有権移譲 掲示板も全面電光化

川・相模原市

神奈川県相模原市にある相模原球場が4月1日、「県立球場」から「市立球場」に生まれ変わり、スタンドや掲示板などの設備も改修して再オープンした。

このほど県から市への移譲協定調印式が行われ、球場改修の推進



相模原球場の改修を喜ぶ渡辺(右から3人目)、佐々木(同2人目)両県議ら

約1万6000人の内外野スタンドを持つ球場で、プロ野球の公式戦も開かれ、広く市民に親しまれている。しかし、開設から20年以

上もたち、スタンドの床から雨漏りが生じるなど設備が老朽化。県が球場の所有権を市へ移譲するのを契機とし、新しくバックスタンドの掲示板を全面電光化にしたほか、雨漏りに改修、シャワー室の補修などを実施した。公明党の渡辺、佐々木両県議らは、地元の関係者から改善を求める声を聞き、2006年12月と07年11月に相次いで県に要望書を提出するなど、球場の改修を推進してきた。

神奈川元県議が出席した。相模原球場は両翼95・元県議が出席した。相模原球場は両翼95